

ときを越え
受け継がれるもの

不動滝

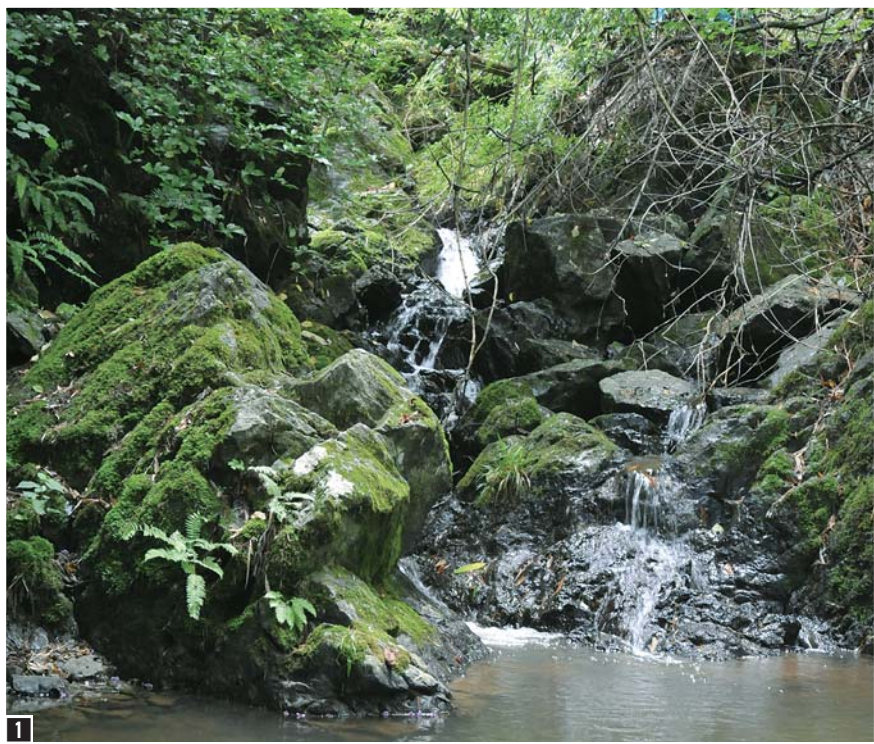
Ⅱ 前沢区生母字伏畔 Ⅱ

母体地区コミュニティ消防センター前の坂を上る途中、カーブに立つ赤い鳥居をくぐり、斜面を下った林の中にある小さな滝。すぐそばに大日大聖不動明王社があることから、不動滝と呼ばれている。

周辺は、日本列島の中でも古い地質である「母体変成岩」の露頭として知られ、滝の景観を作り上げる岩石から、太古の地層を見ることが出来る。

母体変成岩は、深海の底に積もった堆積物が大地の奥底で岩盤になったもので、波打ったしま模様が特徴。形成された時期は、約5億年前の古生代カンブリア紀と推定されている。市内では江刺区から水沢区、前沢区にかけて分布しており、この岩石が見られる代表的な場所である「母体」の地名が名付けられている。うつそうとした林の中、ひとときの涼を感じさせる不動滝。悠久の時の中で作られたその眺めは、訪れる人を太古へといざなう。

※岩石や地層が土や植物などで覆われずに、直接地表に現れている所



❶木洩れ日の中、岩々の間を絶え間なく水が流れ落ちる ❷岩石の左側、縦に波打って見える模様は、高い圧力がかかったことを示している ❸「明かし立て」と呼ばれる祭事では、地元住民が参道にろうそくを立ててお参りする不動明王社。右手奥に不動滝が見える



広告